

各位

2019年4月吉日
株式会社 益久染織研究所
奈良県生駒郡斑鳩町法隆寺南 3-5-47

手つむぎ糸・ガラ紡糸の生産背景変更についてのお知らせ

日頃は、手つむぎ製品をご愛顧賜り、誠にありがとうございます。

長きにわたり、手つむぎ糸を主体に製品等生産を行ってきた益久染織研究所。
しかしながら、中国の経済成長に伴う人件費・維持費の急激な高騰は本来の製造原理が成り立たない程となりました。加えて生産農家の高齢化による紡ぎ手の減少・生産量の減少はますます進み、手つむぎ糸だけでは製品全体を賄い切れない現状となって参りました。
近年それを見据え、和製紡績機「ガラ紡」*1 における糸の生産・本格稼働を視野に導入を進めております。

この紡績機が中国山東省の自社工場において、ようやく安定稼働を始めたことをご報告させていただきます。

また、糸の主な製造方法の変化はありますが、素材は変わりません。
中国山東省にてかつて一度も農薬を使わない畑で、自然栽培にて育んだ綿花を使用しております。

手つむぎ糸の製品製造と並行しながら、ガラ紡糸の製品についても企画・試作を行っており、販売開始時期、製品ラインナップ等、近い将来ご報告ができるかと存じます。

日頃手つむぎ製品をご愛顧下さる皆様へ、まずは、手つむぎ糸生産の現状をお伝えするとともに、紡績方法の段階的移行についてお知らせいたします。

以上

[和製紡績機「ガラ紡」については、こちらのページをご覧ください。](#)

*1) 和製紡績機「ガラ紡」は、明治初期『臥雲辰致（がうんたっち）』（発明家）が発明した臥雲式紡績機です。手紡ぎ糸の風合いに一番近い、糸が作れる製造方法です。